

ThreeBond



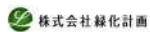
ALL JAPAN
SUPER FORMULA
Championship 2026

RACE REPORT



Round.3

AUTOPOLIS





好調続くか、第3戦オートポリス

全日本スーパーフォーミュラ選手権今季2大会目となる第3戦が4月25日(土)～26日(日)、大分県日田市のオートポリス インターナショナルレースコースで開催された。

今季体制を刷新し、ドライバーに小出峻選手、トラックエンジニアには大駅俊臣氏を起用したThreeBond Racingは、第1大会のモビリティリゾートもてぎでのレースに於いて、第1戦ではチームのスーパーフォーミュラ参戦後最上位となる5位に入賞。続く第2戦でも9位に入賞し、2戦連続での選手権ポイントを獲得。好調な滑り出しを見せた。チームは今回も前回大会の流れに乗って、更に上位を狙おうと意気込んでいた。





ThreeBond

Round.3 土曜日フリー走行&公式予選

今季は1大会1レース制大会の場合、公式予選の方式を従来のQ1、Q2の2段階制からQ1、Q2、Q3の3段階制の予選方式に変更されており、今大会は今季初めてとなる3段階制予選が行われた。全24台の内、半分の12台ずつが出走するQ1A組、Q1B組からそれぞれ上位6台の合計12台がQ2に進出。更にQ2出走全12台の中から上位5台がQ3に進出。Q3でのタイムアタックで最終的な上位を決定するという仕組みである。また今回から予選1位には従来の選手権ポイントに加え、100万円の賞金が横浜ゴム株式会社から贈呈されることとなっている。

公式予選に先立ち、土曜日の午前にフリー走行セッションが行われた。小出選手はまず車両の状態を確認するために走行を開始したが、間もなく突然エンジンのパワーが十分に出なくなり異常を訴えてピットイン。チームは原因と思われる箇所に対応を施して再び小出選手をコースへ送り戻したが、トラブルは解消されておらず、通常で走れないままピットへと戻ることになった。チームは以降の走行を打ち切り、原因と思われる部分の全面的な分解修理に取り掛かることとなった。チームは症状に関連する部品を大幅に交換し、午後の公式予選に備えた。

14時30分、公式予選Q1B組に出走した小出選手はエンジンの復調を感じ取り、午前のフリー走行で得られなかったマシンバランスを早く掴み取ろうとレーシングスピードに戻した直後、第1コーナーの立ち上りで、ウォームアップが不十分だったリアタイヤが滑り、スピン状態になってコースオフ。バリアと衝突し、マシンのフロント部分を破損して停車した。損傷はノーズコーンなど一部に留まったが、走行の継続はできず、赤旗中断の原因となってしまったため、決勝のスターティンググリッドは最後尾と決まった。



Pos	No	氏名/予選 Q3タイム
1	1	岩佐 歩夢 / 1' 25.866
2	6	太田 格之進 / 1' 26.139
3	16	野尻 智紀 / 1' 26.144
-	12	小出 峻 タイム計測できず





Round.3 日曜日フリー走行&決勝

オートポリスは朝の段階では曇りだったが、朝9時40分からのフリー走行開始の時点では小雨模様となった。

チームは前日の予選で破損した車両を修復し、レインタイヤを装着して、小出選手を30分間のフリー走行へ送り出した。まずは修復した箇所にも異常がないかを慎重に確認しピットに一度帰還。結果的に問題はなかったことから、この週末を通して初となる、レーシングスピードでの走行を試そうと再びコースへと入った。ところが、ピットレーンからコースへと進入した直後にコース上で他車のクラッシュが発生。赤旗が提示され、フリー走行セッションはその段階で打ち切りとなってしまい、小出選手は結局ほとんどレーシングスピードでの走行ができずに決勝レースを迎えることとなってしまった。

グリッドウォークなどのイベントを経て、予定通り14時30分の決勝スタートに向けてスケジュールは進んでいたものの、レーススタート前に雨脚が強まり、スタートは一旦延期となった。雨脚が一端弱まったことから、14時48分になってセーフティカー先導で決勝レースがスタートとなった。しかし、オープニングラップを走行中に雨が再度強くなり、路面コンディションの悪化を理由に赤旗が提示され、レースは中断。全車両がホームストレート上に停車した。ここから雨は更に強まり、15時10分にエントラントを集めてミーティングを実施した主催者側はレース再開が不可能と判断し、15時20分に決勝レースの中止を決定した。

大会組織委員会は、今季中に代替戦決勝レースを開催するか後日協議を行うと発表したが、代替戦開催の際には、今回の公式予選結果が適用されるため、チームは最後尾から決勝レースを戦うことになる。全体を通じ、厳しい結果の週末となった。





ドライバー:小出峻 コメント

土曜日のフリー走行は、本格的に走ろうという時になって急にエンジンのパワーが出なくなってしまいました。ピットに戻り、様々な対策をしたのですが効果がなく、ほとんど走行できないままセッションを終えることになってしまい、公式予選は「ぶっつけ本番」という形になってしまいました。それでも予選Q1は絶対に突破するつもりでしたが、新品のタイヤを装着してコースに入り、第1コーナーで感触を確かめようとした際に、自分が想定していたよりもタイヤがグリップせず、コーナーの出口でリアが滑って、そのまま立て直せずにクラッシュしてしまいました。前回大会の流れを崩したくは無く、もちろん気合いも入っていたのですが、もう少し落ち着いた方が良かったと反省しています。決勝は雨量が多く、レースをすることは無理な状況でした。今週は流れに乗れない印象のまま、終わってしまいました。



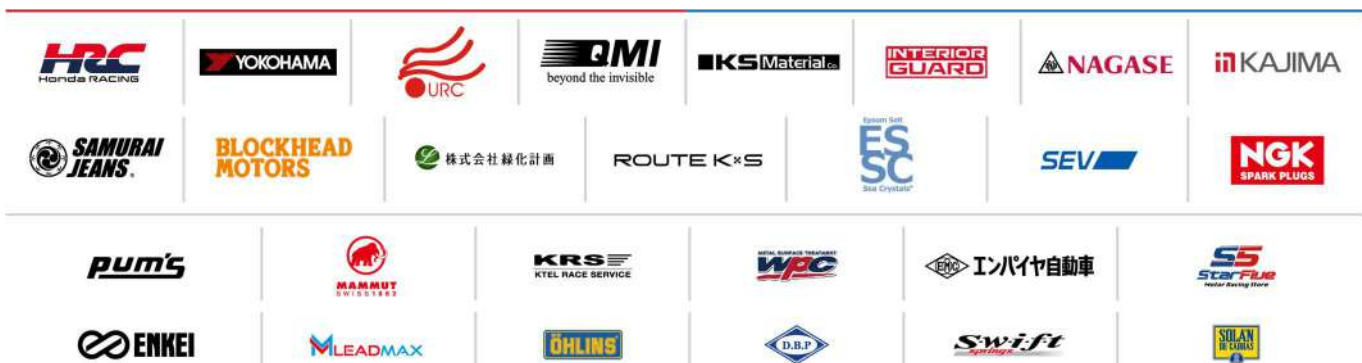
監督:塚越広大 コメント

前回大会では2戦とも選手権ポイントを獲得することができ、チームとして良かった反面、反省点もありました。その反省点を踏まえた上で臨んだ今回のオートポリス大会には、自信を持っていました。しかし、土曜日フリー走行の開始直後に、エンジントラブルが発生してしまい、まともに走行ができず予選を迎えることになってしまいました。予選でもクラッシュしたことで、タイム計測もできず、流れの悪い週末になってしまいました。開幕大会で良い流れに乗り、コースが変わっても同様のパフォーマンスが出せることを確かめたかったのですが、それができなかったのが残念です。次の鈴鹿大会ではしっかりと結果を残せるよう、改めてチーム全員で気を引き締めて準備を進めます。



トラックエンジニア:大駅俊臣 コメント

土曜日フリー走行を走り出したタイミングで急にエンジンのパワーが出ない状態になってしまいました。現場では原因特定に至らず、結局は原因として疑わしい部分を全て変えただけで予選を迎えました。その結果、エンジンの調子は戻りましたが、変更した部分のどれが原因だったかは、まだ分からないままです。大会終了後にエンジンサプライヤーを含め、原因の特定を進める必要があります。前回の良い結果を踏まえて、今回はコースが変わってもマシンの調子を維持できるのか確かめたかったので、決勝レースの雨天中止は残念でしたが、天候を考えるとやむを得ない判断だと思えます。



ThreeBond

Drivers & Team Ranking

※ポイントランキングは Rd.3 予選結果まで反映

Rd.3 の決勝レースについては代替開催を検討中の為、空欄となります。

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	太田 格之進	39	2+10	3+20	2									
2	岩佐 歩夢	17.5	3+7.5	1+3	3									
3	阪口 晴南	15	0	15	-									
4	福住 仁嶺	11	0	11	-									
5	ルーク・ブラウニング	8	0	8	-									
6	大湯 都史樹	8	0	2+6	-									
7	佐藤 蓮	6.5	1+5.5	0	-									
8	ザック・オサリバン	5	0	5	-									
9	小出 峻	5	3	2	-									
10	山下 健太	4	0	4	-									
11	イゴール・オオムラ・フラガ	4	4	0	-									
12	サッシャ・フェネストラズ	2.5	2.5	0	-									
12	野尻 智紀	2.5	1.5	0	1									
14	野村 勇斗	2	2	0	-									
15	松下 信治	1	0	1	-									
16	坪井 翔	1	1	0	-									
17	ロマン・スタネック	0.5	0.5	0	-									

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	30	0+10	0+20										
2	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	21	0+0	15+6										
3	TEAM MUGEN AUTOBACS	12	7.5+1.5	3+0										
4	NTT docomo Business ROOKIE	11	0	11										
5	PONOS NAKAJIMA RACING	9.5	5.5+4	0+0										
6	REALIZE KONDO RACING	8	0+0	8+0										
7	ThreeBond Racing	5	3	2										
8	TEAM IMPUL	5	0	5										
9	KCMG	4	0+0	4+0										
10	VANTELIN TEAM TOM'S	3.5	1+2.5	0+0										
11	San-Ei Gen with B-Max	2	2	0										
12	DELIGHTWORKS RACING	1	0	1										
13	ナビクル Buzz MK RACING	0.5	0.5	0										
14	KDDI TGMGP TGR-DC	0	0	0										
15	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	0	0	0										
16	TEAM GOH	0	0	0										

